

単為結果性 複合抵抗性 ミニトマト

# べにすずめ



ホルモン処理不要  
マルハナバチも不要  
強健・多収・食味良好

公益財団法人 園芸植物育種研究所

単為結果性・複合抵抗性ミニトマト

# べにすずめ

## 品種特性

- ・単為結果性であり自然着果し、着果ホルモン処理、マルハナバチが不要
- ・葉かび病 (Cf-9)、トマトモザイクウイルス (Tm-2<sup>a</sup>型)、萎凋病 (レース1、レース2)、半身萎凋病に抵抗性の複合抵抗性品種
- ・糖・酸ともに高く食味良好で、しっかりとした肉質
- ・果実は濃赤色でツヤがある球形果で15~20g、揃いもよく豊産
- ・極早生で多収 (園研品種 ネネ、CFネネと比較して)

## 栽培のポイント

- ・標準施肥量 (火山灰土壌・土耕栽培: 成分量 kg/10a)  
N=10~12 P=30~40 K=15~20 Ca=50~60  
堆肥=3t/10a
- ・定植適期の苗  
第1果花房の蕾が米粒大頃の若苗
- ・草勢管理  
極早生、多収品種のため、栽培初期から草勢をやや強めに管理
- ・摘果  
果数が多い果房は、30~40果に摘果すると、果実の肥大や揃いが良好
- ・追肥  
追肥は草勢を見ながら行い、1回あたり窒素成分量で1kg/10aが適量
- ・接ぎ木栽培  
台木は、トマトモザイクウイルス抵抗性遺伝子がTm-2またはTm-2<sup>a</sup>型をもった品種を使用する

## 作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
促成	■							○	■	■	■	■	■
半促成	■					○	■	■	■	■	■	■	
ハウス早熟	○	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
雨よけ	○	■	■	■	○	■	■	■	■	■	■	■	
ハウス抑制	■				○	■	■	■	■	■	■	■	
(越冬栽培も含む)	■					○	■	■	■	■	■	■	

公益財団法人 園芸植物育種研究所 〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1  
TEL. 047-387-3827 FAX. 047-386-1455